

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102		
自己評価作成日	令和 5年10月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念と施設理念を念頭に、入居者様とご家族様の意志を尊重し落ち着いた穏やかな生活ができるよう傾聴を基本とした、ご利用者に寄り添う介護を心掛けております。
 新型コロナウイルスが依然続いています。5類に分類され活動の幅が広がっていると考えております。自粛していた見学や面談を段階的に許容し危険をコントロールしながらご家族様とご利用者様の絆を復活し、ご家族様の意向確認によりご利用者様に合った、納得される支援を充実していきたいと考えています。
 コロナ自粛のなか少なからずADLの低下がみられる状況なのでご家族様との協力のもと生活の質を維持、向上していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、統括部長と管理者が連携して、各委員会や研修体制を整えて資質向上に取り組み、事業所運営の支援体制を整えている。管理者は、ホーム会議・個人面談を活用して、職員との意見交換・情報共有を図り、理念に基づく利用者本位の支援の実践に繋げている。コロナ禍による制限の緩和を受け、地域行事への参加や家族・友人との外出や外泊を再び行うことができるようになり、感染状況を見ながら、家族や地域住民との交流活動を勧めている。運営推進会議では、事業所の現状報告に留まらず、地域の行事や災害対策、職員研修など、様々なテーマについて意見交換・情報共有を図っている。毎月2ユニット合同のホーム会議にて利用者全員について全職員がカンファレンスを行い、利用者らしく生活できる環境作りと支援を心掛け、介護計画作成に繋げている。医師・看護師、歯科医師や薬剤師と連携して、家族の意向に沿った適切な医療の提供に努めている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回のホーム会議で基本理念、施設理念を提示し確認している。玄関にも提示し来訪者、従業員に常に意識ができるようにしている。	法人は、逐次統括部長と管理者が連携して、事業所運営の支援体制を整えている。管理者は、ホーム会議(月1回)を活用して、職員との意見交換・情報共有を図り、理念に基づく支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との祭りや防災訓練などで地域との繋がりを得て、近所で挨拶をかわし交流している。	コロナ禍でも、運営推進会議等の報告を通して、自治会との連絡をとり、協力関係を継続してきた。制限緩和を受け、地域の夏祭りのお囃子・屋台の受入れ、防災訓練など、地域住民との交流を復活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会からの地域の情報を積極的に取り入れ交流に向けて活かしている。相談、質問はいつでも受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の住民や会長、民生委員会の方へ現状報告し、地域から見た施設の取り組みを意見交換している。災害対策について活かしている。	市・地域包括支援センター職員・自治会・民生委員、家族が参加して、2か月に1回対面開催している。事業所の現状報告に留まらず、地域の行事や災害対策、職員研修など、様々なテーマについて意見交換を図り、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターとは運営推進会議や研修で交流し事業所の実情を報告している。	運営推進会議に参加時や職員研修実施時などの連携した対応により、常に相談できる協力関係を築いている。災害時の地域一時避難所としての施設対応について、地域からの要請を受け、検討を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について委員会を発足し職員全員が正しい知識を得られるよう委員会活動で学んでいる。	「身体拘束廃止適正化委員会」は、2か月に1回、運営推進会議開催時に開催している。指針・マニュアルを整備し、法人による新人研修と職員研修(年2回勉強会)を行い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	虐待防止に関する指針の策定と研修の実施について、24年度から義務付けられることから、身体拘束適正化に関する委員会・研修と虐待防止の委員会・研修は、区別して実施する仕組み作りを期待します。

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に言動、行動はスタッフ同士気を付け声を掛け合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を活用したりホーム会議やミーティングにて制度に関して学ぶ機会を設け対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明をし理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には日ごろの様子を伝え要望があれば速やかに対応するよう努めている。	面会制限がある中でも、お便り「えがおだより」や窓越し面会の際に利用者の様子を伝えて、家族からの要望や意見をの聴き取りに注力してきた。制限緩和を受け、家族面会や運営推進会議の機会を利用して直接意見を聴き、事業所運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を設け職員の意見や相談は常に汲み取れるよう努めている。	毎月ホーム会議(17:00~20:00)にて職員同士の意見交換・勉強会を行い、情報共有を図っている。管理者は個人面談を行い、職員個々の業務目標の確認と意見の聴き取りに努めている。法人統括部長を中心に各委員会や研修体制を整え、資質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って勤務できるよう努めている。職員同士声掛けをし気持ちよく働けるように力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりコミュニケーションを取りながら勉強会で取り上げ日々のケア実践に役立てるよう努めている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流がある場に参加したり職場の情報交換等を通じて積極的に意見の交換をしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が遅れるように不安のない毎日を送れるよう声掛け関わって職員同士情報交換している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様へ入居後様子を伝え連絡を取り合い良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と相談しながらご本人様にとって良いサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活動作を共に行い、充実した生活が遅れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	安心していただけるよう家族とのコミュニケーションを大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さま、知人、友人、関係が切れないよう来訪や外出に適切に対応している。なじみの場所に対してご家族さまの協力を得て支援している。	制限緩和を受け、感染状況をみながら家族面会や家族との外出を支援している。2か月に1回、訪問理美容の利用やユニット間の利用者同士の交流など、事業所や職員が馴染みの関係となるよう、日々の暮らしの支援に努めている。	

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での座る位置を配慮している。良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相互に相談できる関係性の継続に努めている。サービス利用が終了したご利用者からの問い合わせにも関係者と相談の上、適切に対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員から利用者の希望の意向情報共有しホームミーティングにて話し合いの場を設けている。担当の職員と介護計画書をもとに話し合いを行っている。	管理者は、入居時に「入居判定」「面談シート」を作成し、利用者・家族の意向を確認している。特に入居後1か月間は、担当職員を中心に「業務日誌」にこまめに記録し、「入居者判定報告書」にて職員全員で情報共有と状況の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報以外に日常での会話や行動詳しいヒントが得られるように注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子言動や変化等のもし送りその都度確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスについてミーティングで現状に「あったケアを実施出来る様つとめている。	毎月2ユニット合同のホーム会議にてカンファレンスを行い、利用者全員について全職員が対応できるように情報を共有している。職員は介護日誌や介護記録の記載内容を常に確認して、意見交換・情報共有を図り、モニタリングや介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した介護日誌や申し送りノートを活用し介護計画を見直したりしている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族様に対応できない時には家族様と連絡取りながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を取り入れご家族と相談している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が訪問診療を受けコミュニケーションを取りながら適切な医療が受けられるようにしている。その都度、ご家族との話し合いをしている。	月2回協力医の訪問診療と看護師の訪問(週1回)により、利用者の健康を管理している。管理者は、逐次情報共有を図り、医師・看護師、歯科医師や薬剤師とも連携して、家族の意向を確認しながら適切な医療の提供に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて入居者様の健康チェックを行っている。日常の様子を報告して処置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様入院時にはすぐ情報提供を行い安心して治療が受けられるようにしている。その都度ご家族との話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関する説明をしている。ご家族様医師施設で話し合い看取りも視野に入れている。	「重度化した場合の対応に係る指針」及びマニュアルを整備し、入居時に利用者・家族に説明して同意を得ている。利用者の体調変化時には、再度医師・家族と話し合い、家族の意向に沿った支援に努めている。法人は、終末期に向けた対応について、定期的に職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時には身体状況について話し合い対応に備えている。緊急連絡のシステムについても打ち合わせしている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には施設の災害マニュアルに沿って行動するように年二回の防災訓練を実施し手順の把握に努めている。	災害別に対応マニュアルを整備し、防災委員を中心に年2回防災訓練を実施している。運営推進会議では地域住民一時避難所としての対応を話し合い、BCPマニュアルに基づく地域住民との連携を検討している。防災委員は、各ユニットごとに水・米等を備え、備蓄管理している。	訓練実施で得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要なことから、課題を整理した訓練記録の整備を期待します。災害時業務継続計画(BCP)において、地域住民と連携した防災訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し排泄介助等はプライバシーに配慮した介助を心掛けている。	「個人情報保護マニュアル」を整備し、利用者・家族に説明し、写真掲載等の同意を得ている。法人と管理者は、「コンプライアンス研修」として接遇に関するアンケートを行い、職員のストレス状態の把握と改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝える事が出来ない入居者に対して表情行動を見て感じ取る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がその人らしく生活できる様ケアを心掛けている。食事や入浴等の時間調整をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容カットをしている。洋服などはご本人の意向やご家族の意向をもとにご本人らしくいられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等を手伝っていただいている。副食の盛り付けの手伝いをしていただいている。	業者が提供する献立と食材により、職員が手作りで提供している。盛り付けや片づけは、利用者の残存能力に合わせて、職員と共にやっている。利用者の希望を聴いて、行事食・おやつ作り(おはぎ・ケーキなど)を行い、楽しく食事する環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態により食事形態を必要に応じて介助支援をしている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛けをしなるべくご本人の後スタッフが点検をしている。歯科往診にてケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンをチェックしている。なるべく自立排泄ができるよう支援している。	法人作成の「健康チェック表」「排尿・排便チェック表」を活用し、排泄前の声掛け・誘導を心掛け、トイレ利用を支援している。排泄・排便・食量・水分摂取量の記録を基に夜勤者が整理して記録し、職員間で個々の状態に応じた対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表にて食事量水分量の確認をしながら医師と相談し服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表にて週二回の入浴できるように努めている。ご本人の意向により入浴剤など、楽しむことができる工夫をしている。	週2回午後を基本に、利用者の希望・状況に合わせて柔軟に対応して入浴を支援している。楽しく入浴できるように、利用者の状況や好みなどを記入して、どの職員でも同様な対応ができるような工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に沿って就寝時間や起床時間はある程度自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個人用収納を使用し薬剤師が管理している。誤薬防止の為の対策もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に合ったレクリエーション活動を提供している。毎月イベント企画し楽しんでいただいている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族は勿論知人友人がご来設出来るよう外出外泊も協力しながら支援している。感染症対策、お薬の服用など出かけられるよう適切に打ち合わせしている。	コロナ禍でも、利用者個々の体調・状況に合わせて、広い駐車場を活用して、植物の水やり・洗濯物干し・散歩などを続けてきた。制限緩和を受け、家族との外出・外泊を再開している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はインフル、新型コロナ感染症対策のため集団への行動はひかえて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話やお手紙のご希望により連絡がとれるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の温度差が少なくなるようエアコンの温度調整をしています。清潔消毒を心掛けています。	平屋造りで天井が高く、事務所を中心に2ユニットが並び、自由に行き来ができる。利用者の作品や花を飾り、季節感を大切にしている。感染症委員会や環境委員会が中心となり、常に空調・室温管理に留意しながら、定期的な換気・消毒を心掛け、清潔な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての入居者が自由に利用できるようお好きな場所で過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただき落ち着いた生活空間になるように努めています。またご本人が落ち着いて過ごせるよう自宅での生活の過ごし方をご家族と打ち合わせしている。	エアコン・クローゼットを備えた居室は、使い慣れた家具を持ち込み、居室担当者と家族が相談して家具を配置し、入居前の暮らしぶりに合わせて生活できるように支援している。定期的な換気・消毒と温湿度を管理して、清潔で安全な環境作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差が無く手すりを設置して安全に自立歩行できます。ご本人の気に入った場所や落ち着ける行動を職員で情報共有し安全に、かつ自立が出来るよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102		
自己評価作成日	令和 5年10月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念と施設理念を念頭に、入居者様とご家族様の意志を尊重し落ち着いて穏やかな生活ができるよう傾聴を基本とした、ご利用者に寄り添う介護を心掛けております。
 新型コロナウイルスが依然続いておりますが5類に分類され活動の幅が広がっていると考えております。
 自粛していた見学や面談を段階的に許容し危険をコントロールしながらご家族様とご利用者様の絆を復活し、ご家族様の意向確認によりご利用者様に合った、納得される支援を充実していきたいと考えています。
 コロナ自粛のなか少なからずADLの低下がみられる状況なのでご家族様との協力のもと生活の質を維持、向上していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のホーム会議で基本理念、施設理念を掲示し確認している。玄関にも掲示し来訪者従業員に常に意識ができるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との地域防災に参加 コロナ五類移行により緩和されたため徐々に参加していく		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学の職場体験など感染症対策をし認知症の人の理解や職場の状況を理解して頂けるよう努めて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に二ヶ月に一回開催している。現状報告だけでなくテーマを設け積極的に意見を出し合っている。施設への協力を得られるよう関係性を作りサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には必ず連絡を行い可能な限り運営推進委員会に主席をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。身体拘束虐待防止の正しい知識を得られるようミーティングを行っている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い問題のある行動や言動が無いように話し合いの場をもうけたり職場の精神衛生に注意を払っている。ご利用者の様子を報告し合い、見過ごす情報がないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議の場やミーティングにて制度に関して学ぶ機会を設け必要な時には対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の読み合わせを行い充分な理解をしていただけるように努める。入居後に不明な点や疑問点がないか連絡を入れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際は感染対策をとり積極的にコムにコミュニケーションをもち日頃の様子を伝えている。マ宴会の家族の様子要望は管理者に速やかに報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面会の機会を設け個人の意見を確認するとともに管理者は職員の意見相談には速やかに時間を作り信頼関係を気付くように努めている。相談の内容によっては管理者、代表と面談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働意欲の向上を目指し勤務できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりのケアの実際の把握に努めて能力に応じた指導を行っている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流の場への参加等徐々に再開させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より入居前の状況を詳しく聞き取り安心して暮らせるように努めている。声掛けや見守りを密にして職員同士で情報交換をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後は家族へ入居後の様子を伝える様に1週間に1～3度連絡して細かい部分の説明確認をしている。面会時に不安や要望があれば承り良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が必要としているサービスが提供できているか判断し家族と相談しながらより良いサービスの提供をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや盛り付け、清掃、洗濯物を干すなど役割を持ってもらい職員と一緒にいる。介護という認識をもたず充実した生活の支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にしている。共に入居差様を支えていく関係を築く様に努めている。管理者は家族対応する際職員も家族と思いを接している事を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも親戚知人等どなたでも自由に来訪できる様対応。感染状況を見ながらお互いに安全に過ごせるようにしている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内で気の合う人と座れるように考慮している。孤立しない様職員が間に入る様にしている。他のユニット間でも交流の場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	信頼実績をもとに相互に相談できる関係の継続一旦退去した方の再入居や情報提供に積極的に協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は入居者の希望意向を職員税委員で共有して希望に添えるような支援に努めている。ホーム会議にて月一回の話し合いの場を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活についてなるべく細かく家族から情報を貰っている。日常会話の中からそれぞれのしたい事の実現ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、言動の些細な変化を申し送り記録に残している。管理者は毎日の記録の確認ケアの変更が無いかを確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスにて入居者家族の意向を担当職員が確認 参加者全員が意見を出し合い共通認識をもち実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した介護日誌、申し送りを活用し体調や心身の変化について介護計画を見直しケアチェック表を活用確実に提供する事の徹底		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族が対応できない時には家族と連絡を取りながら状況に応じた対応 必要に応じた交通手段の手配		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の観点から自粛している。今後感染予防と状況を見ながらボランティア等の受け入れも検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員月2回の提携医の往診 ご本人とコミュニケーションを取りながら適切な医療支援 緊急時も含め24H体制で対応 往診時薬剤師同行し適切な処方		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師にて健康チェック 訪問時は日常の様子を報告、相談しながら適切な処置を受ける事を支援		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は直ぐに情報提供を行い安心して治療が受けられる様にしている。病院関係者と連携しながら早期の退院が出来るよう情報交換や相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」の説明と読み合わせをしている。入居者様の体調変化時には家族医師施設で話合う場を設け施設でできる限りの支援看取りも視野に考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時マニュアルに沿った対応ができる様にしている。ミーティングにて身体状況について話し合い急変事故対応に備えている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には施設の災害対応マニュアルに沿って行動するよう職員と周知していく。年2回6月、11月の防災訓練を実施 職員緊急連絡網の作成 災害発生時に周知		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり1人の人格を尊重し排泄や入浴時は羞恥心やプライバシーに配慮した声掛け介助を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見や意思を伝えやすい信頼関係や雰囲気作りをしている。可能な限り自己決定できる様働きかけ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できる様常に入居者主体のケアを心掛けている。活動を行う時も本人の意向を確認対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回訪問理容に来ていただける。更衣の衣類は可能な限り本人に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付けなど出来る事はやって頂いている。追加調味料についてはできる範囲で対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり1人の嚥下状態口腔状態体調に合わせて提供 主食は軟飯お粥副食は普通きざみミキサー食で対応		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け見守りにて口腔ケアを行っている。歯ブラシは月一回交換 使用後のブラシ、コップは次亜塩素酸ナトリウムにて消毒し、歯科往診の実施をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて必要場合は定期誘導している。失禁等の場合は陰洗 パットリハパンはトイレの度に確認し清潔を保つように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用表を使い個々に応じた対応健康チェック表にて水分量を確認、必要に応じ水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴 体調バイタルに合わせて入浴かシャワー浴等に行っている。入浴剤などを使い、楽しめるための工夫を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に沿って就寝時間や起床時間はある程度自由に行っている。日中も希望や体調に合わせて休んでいるか昼夜逆転に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は鍵付き収納を使用 誤薬防止の為にポケット付きシートにセット ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合った作業やレクリエーションの提供を行い、月ごとイベントを楽しんでいる。ご本人の様子を伺い楽しめる行動を勧めている。		

静岡県(グループホームえがおの里 浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員、家族付き添いのもと外出支援を行っている。ご本人の地域との繋がりを大切に考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が事務所に預かり管理している。必要に応じ家族と相談し、適切に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をつなぐようにしている。ご家族や大切な友人との絆を情報共有し対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度差を亡くすようにエアコンの調整消毒清掃をし清潔を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファは誰もが自由に使えるようにしている。ご本人の様子を伺い落ち着いた居場所の誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室家具は使い慣れたものを持ち込んでいただいている。本人にとって落ち着いた空間を作れる様写真や小物を持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なく手すりを設置し安全に自立歩行できる。トイレ浴室に表札を設置迷わない様にしている。		